

令和7年度 第2回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日 時 令和7年3月23日(月) 14:00～15:30
- 2 場 所 徳島市役所 本館13階 第一研修室
- 3 出席者 委員 委員長 三木 鈴江(家庭文庫代表)
副委員長 和田 初枝(四国大学日本文学科准教授)
委員 小川 恵子(川内北幼稚園長)
米田 直紀(沖洲小学校長)
遠藤 明子(入田中学校長)
松永 勉(市文化協会会長)
板東 恵子(市社会教育委員長／市婦人連絡協議会会長)
岸本 和代(市議会文教厚生委員会委員長)
竹内 紘子(日本児童文学者協会徳島支部長)
住村 早紀(徳島市・名東郡PTA連合会会長)
福島 吉美(徳島市少年を守る母の会会長)
露口 悦之(県立図書館長)
- 事務局 市教委(社会教育課)岡田課長、北村課長補佐、平山係長、吉岡主査、
島本主事
図書館(指定管理者)廣澤館長、菊本副館長、清水副館長、
渡部副館長、岸本部署責任者
中四国支社営業部山本
多田エリアマネージャー

4 議 題

(1) 令和7年度の活動状況について

館長より説明。

＜質疑応答①＞

委員 電子図書館について質問する。電子図書館は移動が困難な方でも電子コンテンツを利用できるということで良いと思う。まだ電子図書館のことを知らない方へ向けて周知方法やきっかけづくりはどうしているか。

事務局 当館利用カードの新規登録された全ての方に電子図書館専用チラシを用いて、案内をしている。また、電子図書館を知らない方に対しては、チラシをお渡しするだけではないアプローチが大切であると考えているため、図書館入口のエレベーターホールにて特設コーナーを設けて、来館者へ呼びかけ、ご案内している。また、一昨年前には

アミコビル5階、図書館隣接の内町コミュニティセンター利用者に向けて、PR活動を行ったこともあった。毎年様々な方法で、知っていただくための取組みを行っている。

委員 駅前の本館まで足を運ぶのが困難な方に向けても、広がっていけばと思う。音楽配信サービスなど、自宅で楽しめるサービスがあることをぜひ広めてほしい。

事務局 音楽配信サービス「ナクソス」についてはアミコビル移転時より案内し、周知に努めてきた。利用は定着しており、便利だというお声をいただいている。まず、サービス内容について知っていただくことが第一歩と考えている。広く知っていただくために図書館イベントとも組み合わせながらPR活動の内容を考えていきたい。

＜＜質疑応答②＞＞

委員 学生の職場体験の受け入れについて。県立図書館や市立図書館で学生の受け入れを行っていると思う。市立図書館は交通の便が良かった。市立図書館では何校ぐらい受け入れているのか。また体験した生徒の感想などを教えてほしい。

事務局 職場体験学習の受け入れ依頼もコロナ禍前に戻りつつある。今年度は市内中学校6校の受け入れを行った。ただ、学校カリキュラムの関係で実施時期が重なるため、調整が難しくお断りをする場合もあった。受け入れについては1校につき、人数が1～3名、日数が2～3日間の職場体験となる。体験日数によって一般室・こども室・移動図書館の体験が可能である。体験2日間の場合、主に館内での学習を行い、カウンター業務、配架、読み聞かせなど体験していただく。体験3日間の場合は、上記に加え移動図書館での屋外体験も可能である。本好きな生徒さんが多く、熱心に学習をされている様子が見受けられた。体験後は心温まるお礼状をいただき、いつもありがたく思う。お礼状についてはスタッフ全員で拝見させていただいている。職場体験学習を通して、図書館を身近に感じていただけることを大変うれしく思う。過去には職場体験学習に来てくれた中学生が実際に司書になられたということもあった。また卒業論文のテーマに図書館を掲げ、地域における図書館のあり方について提言をしてくださったこともあった。職場体験学習を通して生徒さんたち自身の進路や関心を広げることに繋がっていることに当館としてもありがたく思う。

委員 職場体験以外でも、小学校児童の皆さんが図書館見学に来られることもあるのか。

事務局 小学校・幼稚園・保育所・学童等、園児、児童の皆さんが図書館見学に来てくださっている。夏休み等を利用して地域団体や学童の児童の方も来られたこともある。また市外小学校からの遠足等で駅前に来られた際、授業の一環として図書館に立ち寄ってくださったり、街の探検等、社会学習として見学に来られたりしている。主にこども室を見学いただき、本の並び方などの説明、案内やおはなし会にも参加していただいている。当館スタッフが学校へ出向くことはコロナ禍前には要望があり、出張図書館講座として訪問したが、コロナ禍後は実現していない。来館いただいた際には図書館が児童、生徒の皆さんにとって役に立つ施設、存在だということを知ってもらえればと考えて対応している。

(2) 令和8年度の事業計画(案)について

館長より説明。

＜＜質疑応答①＞＞

委員 来館者数についての取組みについて。四国大学ではフロアごとに使用方法が違う。交流が可能な下階フロアと静かに取り組むことができる上階フロアを、目的に応じた使用方法で学生が独自に選択をして利用している。静かすぎない図書館、そういった施設づくりをしているところも全国にある。ふらりと来館して空いた時間を活用できる場所としても過ごしやすい施設として存在していると思う。近年は電子図書館などもあり、図書館に直接アクセスしなくても情報が手に入れられるという良い部分もある。図書館は静かな場所というイメージは、時代が進むにつれ変化していくこともあると思う。

事務局 図書館フロアのすみ分けについて。学生への学習支援としては、令和3年より当館会議室の空き時間帯は学生自習室として開放しており、年々、利用も右肩上がりに増えてきた。塾までの待ち時間、バス待ち時間などに立ち寄られているようで、集中して学習するために利用されている生徒さんたちを多く見受けている。また学生自習席以外にも、一般利用者向けの社会人席コーナーがあり、利用数は多く、活用いただいている。

図書館で様々な目的に沿って交流の場を設けるのは良いことだと思うが、当館は一般室とこども室の2フロアに分かれているため、建物

の構造上、すみ分けについては難しく課題がある。時代に合わせて柔軟に対応できればと思うが、いただいたご意見を参考にさせていただき、きめ細やかな対応ができるよう模索したい。

(3) その他

《質疑応答①》

委員 連携先の紀伊国屋書店について。書店と図書館は相反するようだが、連携強化することでこういった相乗効果や戦略があるのか。街中の書店が減っている中で、市民にとっても街の活性化に向けての知恵などが得られると思う。

事務局 紀伊国屋書店は同じアミコビル内5階に位置しており、こども室とは通路で繋がっている。数年に渡って情報交換をさせていただくと共に協力体制を整えている。また、図書館イベントなどを行う際には店内で広報協力をいただいている。他にも当館YAボランティア活動の一環で、おすすめ本を紹介する活動では、紀伊国屋書店内にてスペースを設けてくださり、本の紹介展示をさせていただいた。書店と図書館の役割はそれぞれ違うが、読書推進、文字・活字文化を普及する目的は同じと思う。紀伊国屋書店に限らず、街の書店と様々な形で繋がりができれば良いと考える。TRCとしても書店・図書館の連携強化を掲げて多種多様な取組を実施しているところである。

《質疑応答野②》

委員 図書館はアミコビルという建物内にあるが、アミコビル内でも本の紹介や電子図書館の紹介などもされているのか？献血ルームなど待ち時間が発生するような場所でも広報活動をするのはどうか。

事務局 アミコビル内で具体的な紹介等はまだ実施していない。献血ルーム等、アミコビル内でもチラシを用いた広報など、双方で情報発信の場を広げ、利用促進のために協力していければと考えている。